

令和 2 年 6 月 30 日現在

機関番号：33936

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2019

課題番号：16K15912

研究課題名（和文）前立腺がん治療に伴う性機能障害を支える看護モデルの検討

研究課題名（英文）Nursing model to support sexual dysfunction associated with prostate cancer treatment

研究代表者

林 さえ子（Saeko, HAYASHI）

人間環境大学・看護学部・講師

研究者番号：40759544

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：前立腺がん看護に関わる看護師を対象とした調査により、看護師は信頼関係を伴う相互関係と共感を基盤とし、患者が性機能障害を受け入れ折り合いをつけるプロセスを支えていることが明らかになった。一方で患者の性機能障害に踏み込む難しさも示され、背景には前立腺がん治療に伴う性機能障害を支援するシステムが不足していることが示された。また、患者を対象とした調査からは、患者は性機能障害を一人で抱えるしかない孤独な体験をしていることが明らかになった。これらより、前立腺がん治療に伴う性機能障害への看護システム構築の必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、欧米諸国と比べセクシュアリティがオープンに論じられにくい我が国において初めて前立腺がん治療に伴う性機能障害への看護支援の実情と患者の体験を詳細に明らかにしたものであり、学術的意義は高い。本研究成果は、前立腺がん治療に伴う性機能障害に関わるための「看護マニュアル・ツール」「基礎・卒後教育」「物理的環境と相談システム」といったシステムの構築に役立てることができる。そのことにより看護師は自信を持って前立腺がん患者の性への支援が可能となり、これまで性の悩みは一人で抱えるしかない孤独な体験をしていた患者のQOL向上に寄与することが期待できる。

研究成果の概要（英文）：Interviews with nurses involved in prostate cancer nursing reveal that nurses are based on mutual relationships and empathy with trust and support the patient's process of accepting and negotiating sexual dysfunction. It was On the other hand, the difficulty of getting into sexual dysfunction of the patient was also shown, and it was shown that there was a lack of system to support sexual dysfunction associated with prostate cancer treatment in the background. In addition, interviews with patients revealed that they were unable to discuss the concerns of sexual dysfunction with anyone. These results suggest the necessity of constructing a nursing system for sexual dysfunction associated with prostate cancer treatment.

研究分野：がん看護

キーワード：前立腺がん治療 性機能障害 セクシュアリティ 看護 質的研究

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

前立腺がんは65歳前後から罹患率が高くなる男性特有のがんである。我が国の前立腺がん患者総数は2011年現在、18万人を超えており、悪性新生物別にみた男性の総患者数では、胃がんや結腸がんを抜き第1位である。日本人の前立腺がん患者数増加の背景には、近年の高齢化、食生活の欧米化に加え、検査の普及や精度の向上により早期のがんが発見されるようになったことがあり、今後も患者数は増加すると予測されている。前立腺がんの治療は、腫瘍の悪性度や病期、患者の年齢や希望により手術、放射線治療、内分泌療法から選択される。しかし、いずれの治療でも性機能や排尿機能といった人間の持つ基本的な機能に障害が生じる。

前立腺がんの看護研究では「排泄・性機能障害や負担感の実態」「排泄・性機能障害や負担感への対処」について研究が行われつつあり、機能障害に対するケアにとどまらず、精神的な負担感を理解したケアの重要性や、患者のQOL向上に向け対処行動を高める支援の必要性が示唆されている。しかし、性に関わる問題については、女性生殖器のがん患者の性に対し関わっていると答えた看護師が58%という報告と比べ、前立腺がん患者に性機能障害に関する悩みの相談を受けると伝えている看護師は24.5%と少ない。その多くが女性である看護師にとって男性の性に向き合い関わるのが苦手であること、患者も自己の性について、女性の割合の多い看護師には伝えにくいことが考えられる。水野らは、看護の世界ではセクシュアリティを封印する土壌があると指摘し、適切な看護技術として性への関わり方を教授する必要があると述べている。

2. 研究の目的

本研究は、前立腺がん治療に伴う患者の体験とケアニーズ、および前立腺がん治療に伴う性機能障害に対する看護支援の実情を詳細に調査する。そしてそれらの基盤データをもとに前立腺がん治療に伴う性機能障害に対し支援のできる看護モデルを検討することを目的とする。

3. 研究の方法

1) 我が国の前立腺がん治療に伴う性機能障害と看護に関する文献検討

(1)方法：はじめに、前立腺がん看護研究全体の概要を探索するために医学中央雑誌 Web 版を用い、「前立腺がん」「看護」をキーワードとし、2005年から2017年の「原著論文」を検索し149文献を抽出。各文献の内容を読み、病態や治療に焦点が当たっていて看護研究ではないものを除いた93件を対象とし、前立腺がんの看護研究について治療方法別に概観。次に、前立腺がん治療に伴う性機能障害を抱えた患者の体験と看護介入に関する研究を探索するために、医学中央雑誌 Web 版で、「前立腺がん」「看護」「性機能障害」をキーワードとし2005年から2017年の論文を検索し65件の論文を抽出。各論文の内容を読み、テーマにそぐわないものを除いた12件を対象とし検討。

2) 「前立腺がん治療に伴う性機能障害に対する看護支援の実情」の調査

(1)対象：前立腺がん患者に関わる部署で3年以上の勤務経験を持つ看護師
(2)調査内容と調査方法：前立腺がん治療に伴う性機能障害に対する看護師の関わりとその関わり方の背景について半構成的面接を実施。
(3)分析方法：質的内容分析によりカテゴリを形成。

3) 「前立腺がん治療に伴う患者の体験とケアニーズ」の調査

(1)対象：前立腺がん治療を受け、性機能障害を体験した患者
(2)調査内容と調査方法：疾病のプロセスにおいて体験した性機能障害にまつわる様々な困難とその対処および欲しかった支援について半構成的面接を実施。
(3)分析方法：質的内容分析によりカテゴリを形成。

4. 研究成果

1) 我が国の前立腺がん治療に伴う性機能障害と看護に関する文献検討

我が国の前立腺がん治療に伴う性機能障害と看護に関する研究についてレビューした結果、以下の4点が示された。2005年以降において、前立腺がんに関する看護研究は、前立腺がん罹患率の増加や治療の発展に比して少ない。前立腺がん治療に伴う性機能障害は、患者に大きな喪失感を引き起こす。性欲や勃起能力といった自己の性に対する自己評価は、自尊感情にも影響し、さらには社会との関わりの変化をもたらす。患者は各々の方法でそれらに対処しているが、妻をはじめとした他者と性機能障害に関する自己の気持ちについて思いや考えを共有したりするところまでは至っていない。妻も性機能障害を抱え落胆している夫を支えたい気持ちを持つものの、手術後の性生活について夫と話し合いたいとは考えておらず、性機能障害は前立腺がん患者にとって重要な課題といえる。前立腺がん治療に伴う性機能障害に対する看護介入についての研究はわずかであり、看護師の性機能障害への介入自体が少なく、前立腺がん患者の性機能障害への具体的な介入の検討は不足している。前立腺がん治療を受ける患者の性機能障害に対する看護介入の実際の状況と介入の促進・阻害要因を詳細に調査し、看護師への働きかけを行うことが必要である。

2)「前立腺がん治療に伴う性機能障害に対する看護支援の実情」の調査

対象は、男性1名・女性9名の計10名で、平均年齢41.4歳±10.2歳、看護師平均経験年数20年±9.2年。配属部署は、化学療法室2名・がん相談支援センター2名・泌尿器科病棟5名・泌尿器科外来1名であった。

前立腺がん治療に伴う性機能障害に対し、看護師は信頼関係を伴う相互関係と共感を基盤とし、患者が性機能障害を受け入れ折り合いをつけるプロセスを支えていることが明らかにされた。一方で患者の性機能障害に踏み込む難しさも示され、背景には【性機能障害に対する看護師の思い込みや無関心】【男性と性を話題にすることに対する戸惑い・抵抗感】【性機能障害を抱えた患者の気持ちに寄り添うことの難しさ】など看護師の背景、【性機能障害を医療者に発信することへの患者の不安と恐れ】など患者の背景、【患者の性機能障害に関わるための基礎・卒後教育の未整備】【性機能障害に関わるための看護マニュアル・ツールの未整備】などシステムの未整備が存在した。また、看護師は【関わりの辛さを傾聴・共感する看護師同士の支え合い】により【看護師自身の志向や都合に関わらず患者の性機能障害に向き合う姿勢】を強化していることが示された。

前立腺がん治療に伴う性機能障害に対する看護支援を促進させるには、性に関わる専門家の育成と協働、性への看護に対する看護師個々の感情に理解を示す職場風土の形成、前立腺がん患者の性機能障害に対応できる系統立てた教育システムの構築、前立腺がん治療に伴う性機能障害に着目したマニュアル・ツールの作成、性に関わる倫理・行動規範の明示と遵守の必要性が示唆された。

3)「前立腺がん治療に伴う患者の体験とケアニード」の調査

対象は25名で、平均年齢73.8歳、診断時平均年齢は68.5歳であった。治療方法ごとの内訳は手術6名、外照射療法5名、内照射療法2名、内分泌療法12名であった。

性機能障害に関するケアニードは7カテゴリ得られ、患者の体験に関する4カテゴリとケアへの期待に関する3カテゴリに統合された。患者は【性機能障害について医師や看護師への表出しづらさ】【看護師から性機能障害に対する介入は無】【前立腺がん治療に伴う性機能障害に関する情報不足】から【性機能障害は一人で抱えるしかない孤独な体験】をし【性機能障害に関する情報提供への期待】【性機能障害に理解のある看護師・専門家への相談システムへの期待】【患者同士で解決に向かえるシステムに期待】を持つことに繋がることが示されていた。

前立腺がん患者の性機能障害を支えていくためには、看護師が性機能障害に対し相談を受けけるメッセージを出せる取り組みや、患者が必要とする性機能障害に関する基本的情報の具体的検討の必要性が示唆された。

本研究は、看護師には性機能というデリケートな問題に対する自らの仕事や考えの調査であり、患者には自らの性機能という最もプライベートな問題に関する自身の体験に関わる調査であった。多大なご協力があった成果であり、ご協力くださった看護師・患者の皆様へ深く感謝いたします。なお、協力の得られた施設において調査を行ったが、今回看護師対象の調査では事例数が少なく性別も女性が多い偏りがあった。患者対象の調査については内分泌療法が多く内照射療法が少ない偏りがあった。これらの課題を考慮しつつ、この4年間に得た研究成果をもとに、次は前立腺がん治療に伴う性機能障害を支える患者と家族への情報提供ツールの検討に取り組む計画である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 大石ふみ子 林さえ子	4. 巻 24
2. 論文標題 患者の安楽の追及とエビデンス セクシュアリティ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 200-204
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林さえ子 大石ふみ子	4. 巻 14
2. 論文標題 前立腺がん治療に伴う性機能障害と看護に関する文献検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生命健康科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 81-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 林さえ子 安藤詳子 大石ふみ子
2. 発表標題 前立腺がん手術に伴う性機能障害に関連する患者の体験
3. 学会等名 第43回日本看護研究学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Saeko Hayashi, Shoko Ando and Fumiko Oishi
2. 発表標題 Patient experience in sexual dysfunction related to localized prostate cancer treatment
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 林さえ子 安藤詳子 大石ふみ子
2. 発表標題 限局性前立腺がん治療に伴う性機能障害に関連するケアニ ドPLISSITモデルによる検討
3. 学会等名 第34回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Saeko Hayashi and Fumiko Oishi
2. 発表標題 PLISSIT model-based examination of nursing intervention into sexual dysfunction caused by prostate cancer treatment.
3. 学会等名 The 22nd. EAFONS(East Asian Forum of Nursing Scholar) 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林さえ子 大石ふみ子
2. 発表標題 前立腺がん治療に伴う性機能障害に対する看護の実践状況のPLISSITモデルを用いた検討
3. 学会等名 第10回日本「性ところ」関連問題学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林さえ子 大石ふみ子
2. 発表標題 前立腺がん治療に伴う性機能障害に対する看護の介入状況と介入の促進・阻害要因
3. 学会等名 第43回日本看護研究学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Saeko Hayashi and Fumiko Oishi
2. 発表標題 Status Nursing intervention for Sexual Dysfunction in Patients receiving treatment for Prostate Cancer and the Factors Encouraging and Inhibiting this intervention
3. 学会等名 The 20th EAFONS(East Asian Forum of Nursing Scholar) 2016 (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大石 ふみ子 (OISHI Fumiko) (10276876)	聖隷クリストファー大学・看護学部・教授 (33804)	
研究分担者	安藤 詳子 (ANDO Shoko) (60212669)	名古屋大学・医学系研究科(保健)・教授 (13901)	
研究分担者	葉山 有香 (HAYAMA Yuka) (30438238)	同志社女子大学・看護学部・講師 (34311)	
研究協力者	遠藤 真琴 (ENDO Makoto)		
研究協力者	長谷川 多恵 (HASEGAWA Tae)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	阿部 良悦 (ABE Ryoetsu)		
研究協力者	林 尚三 (HAYASHI Shozo)		